

# C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese di Kyoto

現代イタリア事情 -Italia oggi- 第3回

## \* 少子高齢化社会と外国人移民 \*

立元 義弘

イタリアの人口は日本のおよそ半分弱ですが、両国の人口動態構造にはよく似たところがあり、先進国に共通して見られる傾向である非婚化・晩婚化、核家族化、少子高齢化という点でいくつかの共通点を見出せます。

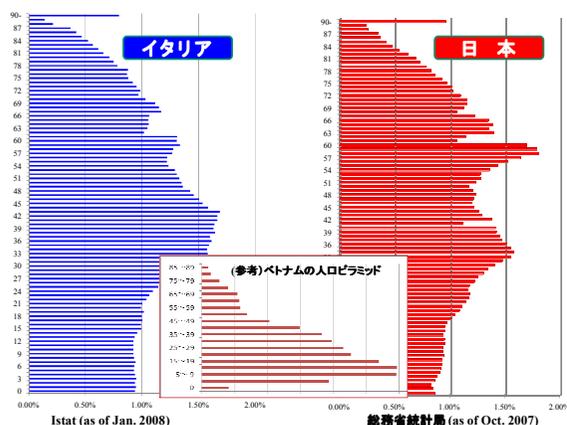
反面、人口減少の続く日本に対して、イタリアの人口はここ数年増加を続けており、2008年末には6000万人の大台を超えました。2001年に行われた国勢調査では5700万人でしたから、この間に300万人、約5%人口が増えたこととなります。また、2009年だけで見ても、前年より出生率が下がり、死亡率が上がったにも拘わらず、30万人増の6034万人と、増加を続けています。そして、この人口増の背景にあるのが外国人移民の存在です。

という観点から外国人移民についてお話したいと思います。

<図1>は、日本とイタリアの世代別人口構成を表す人口ピラミッド図に、参考としてベトナムのピラミッドを並べてみたものです。国民の平均年齢がそれぞれ43.7歳と44.6歳のイタリアと日本ですが、そのピラミッドはよく似た形を示しています。しかし、平均年齢27歳のベトナムの形とは全く異なり、日伊両国に共通する少子高齢化社会の実態を読み取ることができます。

65歳を超える世代の構成比率はイタリアが20.2%、日本が22.7%と、およそ5人に1人がお年寄りとなり、さらに80歳を超える“スーパー老人”の比率はイタリア5.6%、日本6.2%と、両国ともに世界トップレベルのお年寄り大国です。一方、14歳以下の子供世代はイタリアが14.1%、日本が13.3%で、日本は最下位(少子という意味ではトップ)、イタリアは最下位から7番目です。ベトナム戦争での戦死者が全体の人口構造にある意味、特殊なものにしているということはあるにせよ、新興国の代表ともいえるベトナムの65歳超世代が5.6%、14歳以下世代が26.1%という数字と比較すると、日伊両国が如何に少子・高齢化が進んだ社会であるかがよくわかります。

そして、高齢化社会のポジティブな側面としての平均寿命は両国とも世界最高レベルにあり、WHOの世界保健統計2010年版によりますと、日本人の平均寿命は男性が79歳で世界4位、女性は86歳でなんと25年間にわたり第1位をキープ、



【<図1>日伊人口ピラミッド比較】

今回は、日本社会との類似性という観点から少子高齢化社会の実態について、また非類似性と

イタリア人は男性が日本人と同じく79歳で4位、女性が84歳で5位となっています。(因みに男性の世界一はサンマリノの81歳です。)

このように、共に長寿国の日本とイタリアですが、それぞれの死亡原因を見てみると、日本人の死亡原因のトップはガンで、これがおよそ30%を占めており、次いで心臓病や脳血管疾患等の循環器系の病気が28%です(平成18年 厚生労働省)。一方、イタリア人のトップは循環器系の疾患で、全体のおよそ半分(48%)を占め、2位のガンも近年増加しており全体の37%となっています(2006年政府統計局)。構成率は異なりますが、三大成人病と呼ばれるガン・心臓病・脳血管疾患が死因の過半を占めるという点で、両国はよく似た状況です。

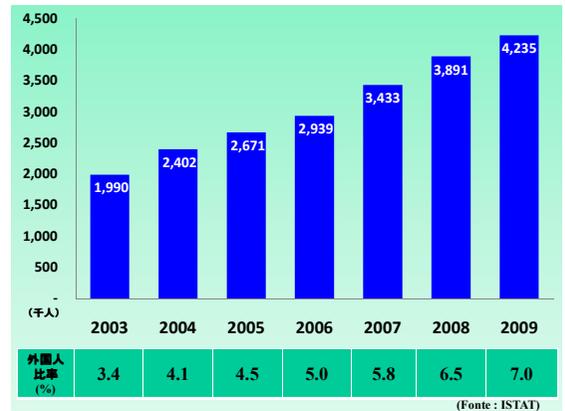
ここまで、少子高齢化という切り口からイタリアと日本の人口動態における類似について述べてきましたが、両国間の大きな違いは、この10年間で日本の人口が+0.3%と伸び悩み、2007年を境に減少に転じているのに対し、イタリアにおいては+6%と増加を続けているという点にあります。将来にわたっても同様で、日本の総務省統計局が、35年後の2045年には人口が今から2700万人減って1億人のレベルにまで減少すると予測しているのに対し、イタリアの政府統計局の予測は、現在の6000万人からさらに6200万人に増加するとしています。この背景には、もしゼロだと仮定すると、向こう50年で1000万人の人口減少をもたらさだろうと言われている外国人居住者の存在があり、これがイタリアにあって日本にはない非類似性の原因のひとつなのです。

イタリアの外国人居住者は年々増加を続けており、2009年末現在で424万人を数え、全人口の7%を占めています。今年に入り経済危機の影響でその勢いにブレーキがかかってはいるものの、2003年には199万人(人口比3.4%)であったものが、この6年間で+229万人と倍増しているのです(図2)。同じ6年間の人口増が250万人であることから、単純に考えるとイタリアの人口増加は専ら外国人居住者の増加によるものであると言うことも可能で、かつてアメリカや中南米地域への移民供給国であったイタリアが、今や移民の受け入れ国となっているわけです。

7%という外国人居住者比率は、ルクセンブル

クの43%や10%を超えるスペイン・オーストリー・アイルランドなどには及びませんが、それでも424万人という数字であり、これはニュージーランド、或いはエミリア・ロマーニャ州の全人口にほぼ匹敵します。例えば外国人居住者比率が僅か1.7%の日本に住む私たちが、観光客以外の外国人(8割が中国人・韓国人・ブラジル人・フィリピン人です。)と接する機会を思い浮かべると、この数字がどれほどのものであるのか、ある程度実感できるのではないのでしょうか。

出身国別に見てみると、ルーマニア人が21%、アルバニア人が11%、モロッコ人が10%で、以下、中国・ウクライナ・フィリピンと続き、彼らの居住地は、主に就業機会の多い北・中部に集中しています。



【<図2>外国人居住者数推移】

また、一人の女性が一生の間に出産する子供の数を表す合計特殊出生率は、イタリア全体としては1.41ですが、イタリア人と外国人居住者に分けてみると、前者が1.33、後者が2.05となっています。そして、2009年に生まれた新生児の13.6%が外国人の母親から生まれた子供たちであり、外国人居住者比率が最も高いエミリア・ロマーニャ州では、5人に1人を超える数の赤ちゃんが外国人の母親から生まれています。

このように外国人居住者がイタリアの人口増に貢献しており、さらには少子高齢化社会の中での労働力の確保や経済の活性化につながっていることは間違いありません。が、一方で、外国人移民の増加が伝統・文化に悪影響を及ぼしたり、犯罪の増加を招いているとして制限の強化を求める声も小さくありません。概してイタリア人は長い歴史の中でいろんな血の混ざり合った人種である

からでしょうか、異文化・異人種に対しては比較的寛容な人々であると思いますが、時には人種差別のからむトラブルや事件が発生しているのも事実であり、現代イタリア社会の抱えるジレンマとして外国人居住者のイタリア社会への溶け込みや融合を促進する制度・仕組み作りが欠くことのできない課題となっています。



【湾岸警備隊の検問を受ける難民】

さて、以上は正規に滞在許可を取得し住民登録を行ったうえでイタリアに住む外国人の話ですが、この他に50～70万人と推定されている不法移民の問題があります。7400kmに及ぶ海岸線を有するイタリアは、海路欧州大陸上陸を目指すプロフギ(profughi)と呼ばれる難民たちの密入国を防ぐ防波堤でもあります。今にも沈みそうな老朽船や時にはゴムボートで鈴なりになって押し寄せてくる難民が、南部イタリア各地の難民収容施設を埋め尽くした時期がありましたが、現在は友好条約の発効したリビアとの協同監視体制強化が奏功し、アフリカからの難民の到来は激減しました。しかし、これは難民がいなくなったからというわけではなく、イタリアに上陸する前に海洋上で強制送還措置が行われているからなのです。一方で、ギリシャやアルバニアからプーリア州の海岸線に流れ着いてくるクルド人やアフガニスタン人などの難民もいます。こうした多くの難民たちは、なけなしの財産を密出国の手配を行う地下組織に手渡し、それと引き換えにすし詰めの粗末な

船に乗せられ、新天地での幸福を夢見て地中海を漂流するのです。しかし、遭難の危険と背中合わせのこうしたオデュッセイアはたいていの場合、当局の湾岸警備隊に発見され、強制送還されることとなり、連れ戻された祖国では懲罰や拘禁などの不当な扱いを受ける境遇が待ち受けています。当局にとっては不法入国者の取り締まりという正当な行為である反面、強制送還に対する人道的観点からの国際的な批判もあり、彼らを密入国者として扱うべきか、或いは保護の必要な政治難民として扱うべきなのか、ここに移民にまつわるもうひとつのジレンマをイタリアは抱えているのです。

(大阪大学講師、元パナソニックイタリア社長)



【ゴムボートで漂流するアフリカからの難民たち】

イタリア発月刊日本語新聞



イタリア在住日本人と日本人観光客のための情報誌

編集・発行 NIPPON CLUB SNC  
Via Torino, 95 - 00184 Roma, Italy  
Tel. & Fax : (06) 4743. 212  
E-mail : comeva@nipponclub.it  
URL : www.nipponclub.it

ベスティアリオ  
イタリアロマネスクの動物誌

第2回  
～獅子～

尾形 希和子

●半人半獣の神々

ジョルジョ・アガンベンは、人間性と動物性の境界についての論考『開かれ』を、13世紀のヘブライ語聖書の巻末を飾る細密画を紹介することから始めている。そこにはメシア的宴に集う義人たちが動物の頭を持つ姿で描かれている(注1)。

エジプトの神々やバビロニアの占星術のデーカン(黄道十二宮をそれぞれ三分割した十分角を司る星)は、動物の頭部を持つ姿で表される。その影響は、ユダヤ教や初期キリスト教のグノーシス思想の中にも見られ、半人半獣、あるいは獣の姿の超自然的存在の概念は、神人同形主義(アントロポモルフィズム)を本質とするキリスト教の天使や聖人などの表象にも受け継がれた。四福音書記のシンボルがその良く知られた例である。これは「エゼキエルの幻視」の四つの顔を持つ四つの生き物テトラモルフに由来するが、その幻視は、エルサレムの神殿に持ち込まれたフェニキアのバル神の偶像をエゼキエルが見知っていたことに基づくと言われている(注2)。像は黄道十二宮の夏至・冬至・春秋分に対応する星座と、宇宙を構成する四要素(エレメント)を表す四つの顔を持っていた。宇宙の時空を暗示する四という数字は、パラダイスの四つの川や宇宙の四方向から吹く風などと、そして教会を支える四本の柱である四福音書記と関係づけられた。こうして人間の姿で表されるマタイを除き、マルコ、ヨハネ、ルカは、そのシンボルである動物を伴って描かれるだけでなく、それぞれ獅子、鷲、牡牛そのものの姿で、さらにはそれらの動物の頭部と翼を持つ人間の姿でさえ表される。

●獅子のシンボリズム

ところで、四福音書記のシンボルのうち獅子こそは、数多くの動物の中でも、その強さゆえに最

も畏れられ崇められた存在であろう。まず獅子の普遍的シンボリズムを見てみよう。獅子は太陽・光として地上に恵みの雨をもたらす万能神の力、ひいては地上の統治者の王・皇帝権を象徴する。また邪悪なものから聖なる場所を守る番人である。しかし獲物を捕らえ引き裂き貪る獅子は「破壊者」「死」でもあり、悪魔ともみなされる。

キリスト教でも隠喩としての獅子は特に旧約聖書に頻繁に登場する。フィシオログスや動物誌では百獣の王として最初に登場し、次のようにキリストとしての獅子の三つの性質が主として語られる。

1)獅子は尾で自身の足跡を消して狩人の追跡から逃れる。父なる神によって地上に送られたキリストが、自身の神性を隠して人の子として生まれたように。

2)獅子は巣穴で眠る時にも目を開けている。これは信者を悪魔から守る見張り役として「警戒」を表すキリストである。

3)獅子の子は死んで生まれるが、雌獅子は三日間死んだ子獅子を見守る。三日目に父がやってきて子の顔に息をふきかけると子は目をさます。父なる神が三日目にキリストを甦らせ死から目覚めさせたように、獅子は「復活・再生」の象徴である。



【図1 サンタ・マリア・アッスンタ教会堂、フォルノーヴォ】

一方、獅子の悪魔としての側面については、たとえば聖ペトロが「あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています」と言っている(ペトロの手紙15:8)。また修道院改革期の11世紀イングランドで生まれたとされる「地獄の口」と呼ばれる図像は、地獄の門や扉を獐猛な生き物の開いた口で描くものだが、その生き物は鱉やレヴィアタン、ド

ラゴンのような爬虫類、時に獅子のような獣を彷彿とさせる(図1)。聖書や教父たちの著作は、獅子やドラゴンなどの顎に呑み込まれるという隠喩で危機にさらされる魂を頻繁に表現している。



【図2 ラヴェンナの石棺】

### ●「天の扉」としての獅子の口

しかし、獅子や獠猛な獣の口は必ずしも地獄や冥府行きだけを意味しない。ロマネスクの聖堂の扉口などの猛獣の頭部や仮面は、インド美術でそれぞれ 楣石の中央と両端を占めるキールティムカという仮面やマカラという幻獣に酷似しており、共通するシンボリズムを持つと言われる。たとえばラヴェンナの5あるいは6世紀の石棺には、半月形の蓋と下部の長方形の区画の間に獅子の頭部の彫刻が施されているが(図2)、インド美術史家クーマラスワミは、これを次のように解釈する(注3)。地上世界を表す下部ではキリストの洗礼が蓋の中の十字架に向かって下降する聖霊の鳩で表されている。半月形の上部は天の穹窿、天上のパラダイスを表し、その二つの世界間に位置する獅子は太陽であり、その口は「天への扉」である。父なる神が送った聖霊はその扉を通して地上世界で化肉し、キリストの魂はその扉を通して再び天上の父のもとへと上昇するのだと。

キールティムカのような獅子面がインド美術で担うのと同様の意味をキリスト教の石棺の獅子に求める解釈はいささか唐突かもしれない。しかしローマ帝国ほぼ全土で流行したミトラ教の獅子の頭を持つ神「永遠の時間(アイオン)」「貪る口はすべてを呑み込み、生み出す「時」の隠喩」も天の扉を開閉して死者の魂の通行を司る存在であることを考えれば、そこには普遍的な象徴が見いだせるのではないだろうか。

### ●番人としての獅子(扉口のシンボリズム)

いずれにしても獅子と扉口や門との関係は密である。王権を象徴する獅子は、ミュケナイの獅子門にも刻まれている。エトルリアやローマでは、スフィンクスと同様に墓地の入り口や石棺上にその姿が刻まれ、墓荒らしや悪霊から死者の靈魂を守っていた。キリスト教美術は古代の葬礼装飾に多くを負っているが、獅子像は特に中世に再び人気を得て広い地域の聖堂の扉口に置かれ、stiloforo(石を支えるものの意)として、円柱を背で支えている。古代遺跡が多く残っていたイタリアでは古代彫刻の再利用も頻繁であり、四対の獅子のうち中央扉口に古代の獅子像が採用されているモデナ大聖堂のような例もある。古代の獅子は呪術的機能を保ったまま、こうしてキリスト教聖堂の扉も見張るようになった。もちろん前足で人間や草食獣を抱え込む姿、あるいはそれらを貪る獅子の姿は、キリスト教の文脈ではそれぞれ悪魔から信者の魂を守るキリスト、その反対に常に信者たちを狙う悪魔と解釈される。しかしマイケル・カミールは、大型の丸彫り獅子は、平面的な絵画に優る物質性や現実性ゆえに、それだけで見る者に並々ならぬ恐怖心を喚起しただろうと言っている(注4)。たとえば聖書やフィシオログス中の獅子の記述や深い意味を知らなくとも、聖堂の入り口を守る二匹の獅子の間を通る人々は、無意識にその大きく開いた口の牙に切り裂かれることを恐れたであろう。

入り口や扉をくぐる行為は一種の通過儀礼である。聖堂の入り口だけではなく、中世の市門には動物像を含む古代の彫像がしばしば置かれていたが、それらの像が門をくぐろうとする者が悪人か否かを告げたという伝説が多く残る(注5)ことから、中世の人々はそもそも扉をくぐるという行

為そのものに、現代の私たちより厳粛な畏れを抱いていたと考えられる。そしてその恐怖心は聖所の入り口という場所であれば、なおさら高まったに違いない。



【図3 クレモナ大聖堂、ファサードの獅子】

### ●動物の魔術的力

「獅子の穴の中のダニエル」、「サムソンと獅子」のような聖書の説話はもちろん、ロマネスク聖堂にしばしば描かれた月暦の獅子座としても頻繁に登場する獅子は、何よりも動物の持つ魔術的力を代表するものであった。ユダヤ教やキリスト教の人間中心主義の中で、動物の姿をした神や天使や聖人の姿は当然大きな抵抗にあった。それでもなお動物の超自然的な力を人間は畏れ敬い続けたのであろう。こうした動物の魔術的力は「マクロコスモス」に属すものと考えられた。ロマネスクは、人間の住むマイクロコスモス内のあらゆる「驚異」への興味と賞賛の時代であり、またそれ

を取り巻くマクロコスモスの時空間を秩序立てて理解しようとした時代でもあった。ロマネスク聖堂はそれゆえに、動物や動物と人間の混血(ハイブリッド)である怪物に満ちているのかもしれない。これについてはまた別の機会に述べようと思う。

注1) ジョルジョ・アガンベン『開かれ 人間と動物』平凡社、2004年、9-12頁

注2) Zofia Ameisenowa, "Animal-headed gods, evangelists, saints and righteous men", *Journal of Warburg and Courtauld Institutes*, 12, 1949, pp.36-37.

注3) A.K. Coomaraswamy, *The door in the sky*, Princeton University Press, 1997, pp.31-32.

注4) Michael Camille, "Mouths and Meanings: Towards an Anti-Iconography of Medieval Art", *Iconography at the Crossroads*, Princeton University, 1993, p.53.

注5) Trivellone, Alessia. "Têtes, lions et attributs sexuels: Survivances et évolutions de l'usage apotropaïque des images de l'antiquité au moyen âge", *Les Cahiers de Saint-Michel de Cuxa*, XXXIX, 2008, pp.212-215.

(沖縄県立芸術大学教授)

## … 会館 だ よ り …

### イタリア語 無料体験レッスン

1月より開講の冬期イタリア語講座に向けて、体験レッスンを開催します。入門者向け。事前予約制。

#### ● 梅田: 大阪駅前第4ビル

1/ 9 (日) 13:00~14:30

1/11 (火) 19:00~20:30

#### ● 京都本校: 日本イタリア京都会館

1/ 8 (土) 11:00~12:30

1/ 8 (土) 13:00~14:30

1/10 (月) 11:00~12:30

#### ● 四条烏丸: ウイングス京都

1/ 7 (金) 19:00~20:30

### スペイン語 無料体験レッスン

入門者向け。事前予約制。

日時: 1/12 (水) 16:00~17:30

会場: 日本イタリア京都会館 本校

講師: 当館スペイン語講師

### ポルトガル語無料体験レッスン

入門者向け。事前予約制。

日時: 1/11 (火) 19:00~20:30

会場: 日本イタリア京都会館 本校

講師: 当館ポルトガル語講師

編集・発行 / (財) 日本イタリア京都会館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町4

TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357

E-mail: [centro@italiakaikan.jp](mailto:centro@italiakaikan.jp)

URL: <http://italiakaikan.jp/>